

第二 計画の体系

目的	策定の視点	目標
<p>すべての子どもたちが、読書や本の活用等を通じて、豊かな感性を育み、実り多き人生を送る力を身につける</p>	<p>本を読む 子どもを増やす</p> <p>子どもの多様性 に対応する</p> <p>デジタル社会の メリットを活かす</p> <p>子どもの声を聴く</p>	<p>社会の一層のデジタル化を踏まえ子ども読書活動を幅広く捉え、図書館・学校・家庭・地域が連携して豊かな読書体験の機会を創出し、ウェルビーイングにつなげる。</p>

二次元
コード

ウェルビーイング: 誰もが自分らしく幸せに暮らしていくこと

段階別目標

【乳幼児期】

保護者等、安心できる人たちとふれあう中で、「わらべうた」等を聞き、声を聞く心地よさを味わい、絵本を読み聞かせてもらって言葉を育み、いろいろな本に親しみます。

【小学生段階】

読み聞かせからひとり読みへスムーズに移行し、様々な本に出合って、読書の世界を広げるとともに、本等を活用して知りたいことを調べる力、情報を取捨選択する力を身につけます。

【中学生段階】

一人ひとり異なる読書興味を追求するとともに、本やインターネットから得た情報を活用し、社会に主体的に関わろうとする意識・意欲を育み、そのための能力を高めます。

【高校生段階】

読書の幅を広げるとともに、本やインターネットから得た知識・情報を活用して、主体的に社会へ参画し、情報を発信する側に立つべく、情報活用能力を身につけます。

【大学生段階】

地域の大学生世代同志がつながり、中学生・高校生ともつながって、区の子ども読書活動推進の一翼を担うことを目指します。

【保護者等周りの大人たち】

子どもたちと一緒に、読書を楽しみます。
本を読むことをためらう子どもたちも、少しの手助けで読むようになることを認識し、実際に子どもたちを読書に導くことを目指します。

より良い読書環境のために

誰もが、気軽に、
読書の楽しさを味わえる
環境づくりを目指します。

障害の有無に関わらず
誰でも読書に親しめる
環境づくり

多言語で読書ができ
日本語習得の支援にも
つながる環境づくり

身近な場所で読書に
つながることができる
環境づくり

5・より良い読書環境づくりのための施策

○ 子どもの多様性に対応した幅広い資料の収集

子ども向け大活字本、LLブック^{*1}、点字図書、さわる絵本^{*2}、マルチメディアDAISY^{*3}図書等バリアフリー図書の収集により、通常の図書を読むことが難しい子どもが、自分にあった図書に出会える環境を整えるとともに、こういった資料があることを広くPRしていきます。

また、日本語を母語としない子どもたちが、日本語を習得するのに役立つよう、日本語の多読^{*4}図書を収集するとともに、英語や母国語での読書ができるよう、しながわ電子図書館も含めて、多言語の資料を収集していきます。

.....

- *1 LLブック：誰でもやさしく読みやすいよう工夫して作られた本
- *2 さわる絵本：絵本を原本とし、布や皮革、毛糸などの素材を用いて、台紙に絵の部分を半立体的に貼り付け、文の部分を点字と墨字にした図書
- *3 マルチメディアDAISY図書：音声と一緒に文字や画像が表示されるデジタル図書。読み上げているフレーズの色が変わるハイライト機能があり、また、読みやすいように、文字の大きさ、音声のスピード、文字や背景の色を選ぶことができる
- *4 多読：辞書を使わずに、自分にとって読みやすい内容の本をたくさん読むことで、語学力を身につける学習法

.....

○ 子どもの多様性に対応したアプローチ

身体の障害、家庭の事情等、様々な理由で、読書することが困難になっている子どもが、どうすれば読書に親しめるのか、図書館が外向いていくことや、しながわ電子図書館の充実も含め、アプローチの方法を検討していきます。

○ 区内の関連施設等との連携

都立品川特別支援学校、品川区児童相談所、障害児者総合支援施設「ぐるっぼ」、マイスクール、明晴学園、子ども食堂等に働きかけ、連携して子どもの読書活動を推進することを視野に入れ、取り組みを進めていきます。

5・より良い読書環境づくりのための施策

○ 子どもの多様性に対応した幅広い資料の収集

子ども向け大活字本、LLブック^{*1}、点字図書、さわる絵本^{*2}、マルチメディアDAISY^{*3}図書等バリアフリー図書の収集により、通常の図書を読むことが難しい子どもが、自分にあった図書に出会える環境を整えます。

日本語を母語としない子どもたちが、日本語を習得するのに役立つよう、日本語の多読^{*4}図書を収集するとともに、英語や母国語での読書ができるよう、しながわ電子図書館も含めて、多言語の資料を収集していきます。

また、こういった資料があることを、学校の先生方、学校図書館スタッフをはじめとした子どもに関わるすべての大人たちへ、さらに子どもたちへ向けても、広くPRしていきます。

.....

*1 LLブック：誰でもやさしく読みやすいよう工夫して作られた本

*2 さわる絵本：絵本を原本とし、布や皮革、毛糸などの素材を用いて、台紙に絵の部分
を半立体的に貼り付け、文の部分を点字と墨字にした図書

*3 マルチメディアDAISY図書：音声と一緒に文字や画像が表示されるデジタル図
書。読み上げているフレーズの色が変わるハイライト機能があり、また、読みやすい
ように、文字の大きさ、音声のスピード、文字や背景の色を選ぶことができる

*4 多読：辞書を使わずに、自分にとって読みやすい内容の本をたくさん読むことで、
語学力を身につける学習法

.....

○ 子どもの多様性に対応したアプローチ

身体の障害、家庭の事情等、様々な理由で、読書することが困難になっている子どもが、
どうすれば読書に親しめるのか、図書館が外向いていくことや、しながわ電子図書館の充
実も含め、アプローチの方法を検討していきます。

○ 区内の関連施設等との連携

都立品川特別支援学校、品川区児童相談所、障害児者総合支援施設「ぐるっぼ」、マイス
クール、明晴学園、子ども食堂等に働きかけ、連携して子どもの読書活動を推進するこ
とを視野に入れ、取り組みを進めていきます。

品川区子ども読書活動推進計画

(令和7年度～11年度)

概要版(案)

目的

すべての子どもたちが、読書や本の活用等を通じて、

豊かな感性を育み、実り多き人生を送る力を身につける

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力などを豊かにします。子どもたちが読書を通じて豊かな感性を育むことは、将来の人生において多くの困難を乗り越えていくための大きな力になります。このことから読書に親しむことのできる環境は、どんな境遇にある子どもたちにも、与えられるべきものと考えます。障害のある子ども、外国にルーツがある子ども、時間的・経済的に余裕のない子ども等、配慮を必要とする子どもたちに寄り添い、すべての子どもたちが読書に親しめる環境づくりを進めます。

また、子どもと接する大人たちが、読書活動の大切さをあらためて見直し、図書館・学校・家庭・地域が一体となって読書の機会・きっかけづくりをしていくことで、子どもたちがより本に親しむことを目指します。



計画の対象

子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年成立)では、子どもを0～18歳と定義しています。本計画では、さらに大学生段階までを含めて対象としてアプローチすることにより、乳幼児期から大学生段階に至るまで切れ目なく読書活動を展開することを目指します。

計画の推進主体

本計画の主体は、品川区立図書館が中心となって、家庭、地域、保育園・幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・大学・児童センター・すまいるスクール・児童相談所等、子ども関連施設、さらには区内で活動する子ども関連団体と連携して推進していくものとします。

計画推進のための施策

1・乳幼児期における読書活動推進のための施策

- 乳幼児啓発事業「はじめてのえほん よんで よんで」
- 児童サービスボランティア・地域読み聞かせボランティア向け講座の実施
- 保育園・幼稚園等への訪問おはなし会・来館おはなし会の実施 など

2・小学生段階における読書活動推進のための施策

- 図書館員体験
- 学校等への訪問おはなし会・ブックトークの実施
- 学校図書館運営サポート など

3・中学生段階における読書活動推進のための施策

- ティーンズボランティア
- Let`s Read!、図書館新聞、おすすめ本リスト等のPR物の作成・配布
- 学校でのブックトーク・ビブリオバトル出前授業の実施 など

4・高校生・大学生段階における読書活動推進のための施策

- ティーンズ書評バトルの実施
- 学校でのブックトーク・ビブリオバトル出前授業の実施
- 高等学校、大学等との連携 など

5・より良い読書環境づくりのための施策

- 子ども向け大活字本、LLブック、点字図書、さわる絵本、マルチメディアDAISY図書等バリアフリー図書や多言語の資料の収集
- 子どもの多様性に対応したアプローチ
- 区内の関連施設等との連携 など

6・子どもの読書活動を進めるための情報発信

- 各種SNSの利用を含め、子どもに届く広く多様な情報発信
- 図書館ホームページの「こどものページ」「TEENsのページ」を魅力的かつ使いやすいものへ更新
- 子どもの読書活動に関心のある大人に向けたページの充実 など

計画の体系

目的

すべての子どもたちが、読書や本の活用等を通じて、豊かな感性を育み、実り多き人生を送る力を身につける

策定の視点

本を読む
子どもを増やす

子どもの多様性
に対応する

デジタル社会の
メリットを活かす

子どもの声を聴く

目標

社会の一層のデジタル化を踏まえ子どもの読書活動を幅広く捉え、図書館・学校・家庭・地域が連携して豊かな読書体験の機会を創出し、ウェルビーイングにつなげる。

段階別目標

【乳幼児期】

保護者等、安心できる人たちとふれあう中で、「わらべうた」等を聞き、声を聞く心地よさを味わい、絵本を読み聞かせてもらって言葉を育み、いろいろな本に親しみます。

【小学生段階】

読み聞かせからひとり読みへスムーズに移行し、様々な本に出合って、読書の世界を広げるとともに、本等を活用して知りたいことを調べる力、情報を取捨選択する力を身につけます。

【中学生段階】

一人ひとり異なる読書興味を追求するとともに、本やインターネットから得た情報を活用し、社会に主体的に関わろうとする意識・意欲を育み、そのための能力を高めます。

【高校生段階】

読書の幅を広げるとともに、本やインターネットから得た知識・情報を活用して、主体的に社会へ参画し、情報を発信する側に立つべく、情報活用能力を身につけます。

【大学生段階】

地域の大学生世代同志がつながり、中学生・高校生ともつながって、区の子ども読書活動推進の一翼を担うことを目指します。

【保護者等周りの大人たち】

子どもたちと一緒に、読書を楽しみます。本を読むことをためらう子どもたちも、少しの手助けで読むようになることを認識し、実際に子どもたちを読書に導くことを目指します。

より良い読書環境のために

誰もが、気軽に、
読書の楽しさを味わえる
環境づくりを目指します。

障害の有無に関わらず
誰でも読書に親しめる
環境づくり

多言語で読書ができ
日本語習得の支援にも
つながる環境づくり

身近な場所で読書に
つながることができる
環境づくり